

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：35502

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730351

研究課題名(和文) 経営学における市場概念の検討をつうじた取引の理論的・経験的研究

研究課題名(英文) Theoretical and empirical studies of transactions through the study of concept of market in business administration

研究代表者

矢寺 顕行 (Yatera, Akiyuki)

徳山大学・経済学部・講師

研究者番号：20582521

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、取引において市場が果たす役割と市場の生成・変化との関係を明らかにすることである。具体的には、アクターネットワーク理論と制度論を手がかりとしながら、市場概念そのものを理論的に問い直し、財の生成、行為者の取引能力、そして市場の生成を明らかにし、経営学独自の市場観を提示する。研究の結果、市場における財や行為者の取引能力は、市場を構成する人・物の関係性によって立ち現れるという視点を明らかにした。この視点に基づき、これまで与件として捉えられていた市場自体の分析は、人・物の関係性の構築に注目し、財・取引行為者の生成と変化として捉えられることで可能になることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the relation between the generation and change of market and the role of market in transaction. Specifically, by rethinking concept of market itself through the theoretical implication of Actor-network theory and Institutional theory in organization studies, we reveal the generation of goods, the transaction agencies of actor in the market, and generation of market, and present the own view of market of business administration. Result of this study, we presented the perspective that the goods and transaction agency made possible by human and non-human network constituting the market. Based on this point of view, it that analyzing the market is to examine the relation of the network constituting the market.

研究分野：経営学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：市場 制度派組織論 アクターネットワーク理論 労働市場 人材紹介業 雇用 転職 中途採用

1. 研究開始当初の背景

市場における取引に関して、経済学では経済的に合理的な計算を主体的に行う個人が想定されてきた。この想定に対し、経済社会学に依拠した経営学の領域の研究では、取引に影響を与えるネットワーク、信頼、文化といった非経済的要因を検討することによって、この行為者モデルを批判してきた。しかしながら、経済学を批判した経済社会学に依拠した経営学においても、どのようにある財やサービスが取引の対象となる価値を持つようになるのか、なぜ行為者は取引を行うことが可能なのかといった、市場それ自体が持つ問題は取り上げられることはなかった。これは上記の研究が、経済学と同様に、ある財・サービスの需要と供給の調整メカニズムとしての市場、すなわち財・サービスは存在し、取引は完遂される、という抽象的なモデルとしての市場を前提としていたことが原因であると考えられる。

財・サービスは自然に存在するものではないし、仮に存在しているとしても、その財にアクセスし計算を行うことができなければ取引は完了しない。したがって、具体的な取引の実践を分析するためには、財・サービスが取引の対象となる過程と取引を遂行する行為者の能力を捉えうる、経済学的な市場観とは異なる新たな市場観が必要であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、取引において市場が果たす役割と取引と市場の生成や変化との関係について明らかにすることである。先述のように、これまで経営学では、個別の取引の分析において市場は与件とされてきたため、個別の取引において市場が果たす役割や取引が市場に及ぼす影響は問われることがなかった。したがって本研究では、取引において市場が果たす役割と取引と市場の生成や変化との関係について検討していく。

具体的には、近年注目されるアクターネットワーク理論と制度論を手掛かりとしながら、既存研究における市場概念そのものを理論的に問い直す。ここでは、「集合的装置としての市場」というアクターネットワーク理論の見方と「制度としての市場」という制度論の見方を整理し、市場と取引の関係を捉えるための枠組みを用意する。この理論的検討を踏まえ、労働市場の分析を取り上げた経験的研究を通じて、財の生成、行為者の取引する能力、市場の生成の3点を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、理論的研究による分析枠組みの検討と、その分析枠組みに基づく3つの経験的検討により、経営学独自の市場観の提示を試みる。

理論的研究に関しては、先述のようにアクターネットワーク理論と制度論に関する文献レビューを行い、分析枠組みを構築した。

経験的研究は、系列取引の歴史の変遷に関する文献・資料の分析と、労働市場を対象とした分析を行った。労働市場の分析に関しては、企業と求職者を結びつける役割を担う人材紹介企業と求人企業を対象にした参与観察、およびインタビューに基づくフィールドワークを行った。

4. 研究成果

(1) 理論的枠組みの導出

本研究では、制度論とアクターネットワーク理論を参照しながら、市場を捉える理論的枠組みの構築を試みた。

市場を捉える上で制度論の視点から導出されるのは、第一に、市場それ自体が多様な制度のアレンジメントとして捉えられること、第二に、市場の生成・変化は、参加者による自らの利害を達成しようとするネットワークと政治的プロセスによって導かれる、という枠組みである。制度論において市場は、それ自体が所有権や統治構造、交換のルール等の制度とともに成立するものであり、文化的・社会的な特定のルールが市場に参加する人々の間で統治するものである

(Fligstein, 2001)。このように市場を構成する多様な制度を制度アレンジメントと呼ぶ。制度アレンジメントは行為を規定するものではなく、参加者によって変更可能なものとして捉えられる。市場における競争は、多様に捉えられる制度的ルールに基づく自らの利害を達成しようとする参加者の行為である。そこでは、自らの資源を利用しながら新たな交換ルールの普及や社会関係を新たに構築しようとするネットワークを行う、政治的なプロセスとして捉えられる。市場の生成・変化は行為者の政治的な行為によって導かれるのである。

アクターネットワーク理論に基づく市場の見方は、市場を、財や取引能力を成立させる装置の集合体として捉えるという視点である (Callon and Muniesa, 2007)。この視点から導出されるのは、財に何らかの価値が内在しているのではなく、また、行為者の取引能力も個人に内在するのではなく、それらは、人・モノのアレンジメントによって可能となるという視点である。財は、それを取り巻く人・モノと結びつけられることによって、財としての価値を有するようになる。他方、行為者の取引能力もまた、人・モノのネットワークの効果として現れる。これを分散された計算的エージェンシーと呼ぶ。すなわち、市場を分析することは、財や取引能力を可能としている、人・モノのアレンジメントを明らかにし、その動態を分析するという理論的枠組みである。

(2) 経験的研究による検討

上記の理論的枠組みは、経験的研究を通じて精緻化された。

まず、制度論的な枠組みを、日本における系列取引に応用した(矢寺他, 2013)。ここでは、系列取引における効率性という基準が、制度アレンジメントによって、その都度変更されていくプロセスであることが明らかにされた。市場における取引行為の基準としての効率性の変化は、その制度的アレンジメントの変更として捉えられ、その変化が取引行為者としてのサプライヤーの利害の追求によって引き起こされていたことが明らかになった。

分析においては、メーカーとサプライヤーの関係について、戦後期、行動成長期、石油危機の3つの時代区分において、メーカーとサプライヤーの系列関係を包含した諸規則と、メーカーとサプライヤー双方の利害に基づく効率性の追求、そして効率性を追求することによって生じる諸規則間のコンフリクトが記述される。系列関係を構成する諸規則は、メーカーとサプライヤー双方の利害に基づいて形成され、そうした規則に準拠することで効率性を追求して行くが、多様な利害が存在するために自ずとコンフリクトを導き、規則の組み替えが生じる。こうした連続的な変化として系列の歴史の変遷は捉えられる。

アクターネットワーク理論に基づく、集合的装置としての市場という理論的枠組みから検討されたのは、日本における労働市場における人材紹介活用の分析である(矢寺, 2013)。先述の枠組みを労働市場に応用すれば、第一に、財の生成として、労働市場における人材のプールがいかんして成立するのか、第二に、取引の能力として、企業がいかんしてその人材の評価・選抜を行っているのかを明らかにすることとなる。

事例分析の結果、人材紹介という市場装置を通じて、人材一般は、求人企業がアクセス可能な転職者となり、求人企業は人材紹介を介することによって、この人材プールにアクセスすることが可能となる。さらに、求人企業の評価・選抜という行為は、人材紹介に加えて、個々の企業の雇用制度や求人要件、人材紹介との相互のやり取り等、企業を取り巻く諸制度との関係性のもとで可能となっていることが明らかになった。この分析によって、市場を構成するアレンジメントは、個々の企業によって異なっており、その結果、市場における多様な行為を説明する枠組みが明らかにされた。

上記の2つの経験的研究から明らかにされた、市場を捉えるための理論的枠組みの特徴は、市場における財や行為者の取引能力といったものが、それらを取り巻く多様な制度、また人・モノの異種混濁のネットワークとの関係性のもとで捉えられるという点である。この特徴は、財の価値や行為者の能力が、単純に外部の環境に基礎付けられるというよ

うな、決定論的な議論には陥らない。なぜなら、それらは行為者の行為によって絶えず変化にさらされているためである。こうした特徴を持つ理論的枠組みの構築によって、先行研究が前提とし、問うことの無かった市場それ自体の問題にアプローチしうるものであるといえる。

(3) 研究成果の意義と今後の展望

上記の研究成果から導かれた理論的枠組みは、国内においては萌芽的なものである。さらに、経験的研究においては、国外においては製品市場についてアクターネットワーク理論を応用した研究がみられるが、労働市場への応用の分析は、未だに行われていない状況にあり、その点で、本研究が明らかにした労働市場に関する経験的研究の1つは、国外の研究に対しても貢献しうる可能性をもっている。

本研究の研究成果は、これまで与件とされ検討されることのなかった財の生成、行為者の取引能力、市場の生成といった問題を捉えうるものであり、既存の取引の研究に新しい見方を提供するという点で意義がある。

しかしながら、本研究によって導出された理論的枠組みには問題が無い訳ではない。それは、第一に、行為を、行為者を取り巻くアレンジメントとの関係性に基礎付けて説明するため、行為者の意図や動機といった問題は捉えられなくなる、という点である(矢寺, 2013b)。今後の研究課題として、行為者の意図や動機をも内包した理論的枠組みの更なる展開を検討する必要がある。

第二に、アクターネットワーク理論を応用した研究においては、研究者が行う研究成果もまた、市場装置として捉えうる。これは、理論の遂行性として近年注目される議論であるが、この指摘を鑑みれば、理論と実践という区分は問い直されることとなる。すなわち、実践を照射する理論と言う位置づけではなく、理論もまた実践のうちに捉えていかなければならない。したがって、経営学研究の方法論的な課題の検討もまた、今後の課題として検討していく必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

- ① 矢寺顕行「組織論における市場概念」徳山大学論叢, 第73号, pp. 129-141, 2012年。(査読無)
- ② 矢寺顕行・浦野充洋・松嶋登「効率性の追求が生み出す系列の内生的変化:二つの新制度派の葛藤を超えて」経営と情報(静岡県立大学・経営情報学部研究紀要), 第25巻, 第2号, pp. 21-43, 2013年(査読有)
- ③ 矢寺顕行「計算空間としての労働市場:

中途採用における人材紹介の活用を中心に」日本情報経営学会誌，第 33 卷，第 4 号，pp. 78-89, 2013 年（査読有）

- ④ 矢寺顕行「市場の実践論的アプローチ」徳山大学論叢，第 77 号，pp. 13-23, 2013 年（査読無）

〔学会発表〕（計 2 件）

- ① 矢寺顕行「計算空間としての市場：中途採用市場のアレンジメント」日本情報経営学会第 62 回全国大会，2011 年 7 月 2 日，神戸大学
- ② 矢寺顕行「計算と市場」日本情報経営学会第 64 回全国大会，2012 年 6 月 3 日，明治大学

〔図書〕（計 1 件）

- ① 矢寺顕行「アライアンス戦略」寺本義也・岩崎尚人編『新経営戦略論』学文社，pp. 165-196, 2012 年

6. 研究組織

- (1) 研究代表者：矢寺 顕行
(Yatera Akiyuki)

研究者番号：20582521